

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハートの家参番館	評価実施年月日	平成20年11月8日
評価実施構成員氏名	三橋 美佐恵・大西 尚美・本間 直子・嶋田 幸子・草川 美香子・中村 さより・大久保 昌幸		
記録者氏名	三橋 美佐恵	記録年月日	平成20年11月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		<p>本年度法人内の事業所管理者間で互いに意見交換を行い話し合いあいながら、地域密着サービス影響の為の理念を作成した。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>ホーム理念については玄関・各ユニット入り口に掲示し、職員のみならず訪問客に対しても確認頂いている。また、職員は日常生活の中で理念実践に向け協力体制を組んでいる。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>地域運営推進会議に於いて紹介している。また、当日不参加であった家族には会議内容と共に郵送で紹介している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		<p>近所のスーパーへは毎日食材の買出しに入居者様と出かけ交流している。また、美容室や理容室・まちづくりセンター・町内会催し等、利用・参加させて頂いたり、ホームの催しへの参加案内をさせて頂いたりと様々な交流をさせて頂いている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>開設当初より町内会に加入し、総会や催し物への参加・協賛品の提供等させて頂いている。また、区の催し物への参加(入居者様と共に)も行っている。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>入居相談のみならず、今後は在宅での認知症介護の悩みやその他の相談も気軽にして頂けるようアピールして行く。(広報誌を利用するなど)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>運営者、管理者、職員は自己評価により日々の取り組みを振り替えると共に、外部評価の意義を理解し日常のケアに生かせる様、また、指摘事項を真摯に受け止め改善に向け取り組めるよう協力体制をとっている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議に於いては毎回サービスの状況報告(外部評価報告や事故発生状況報告・年度目標報告等含む)を行い、意見や感想を求めている。その際に頂いた意見は今後のケアに生かしていける様職員間で共有し実践に向け取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括センターとは、運営推進会議に参加頂く以外にも区の職員研修に協力頂いたり、区に於けるグループホーム空き室状況を提供頂き各ホームへ情報提供するなどして入居希望に対応出来る様協力体制を作っている。また札幌市介護保険課にはサービス提供に於ける疑問での指導を受けたりしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>成年後見制度利用については司法書士に相談しアドバイス頂いたりしているが、実際には活用までには至っていない。また、職員に対しては制度の概要についての説明は行っているが詳細についての理解までには至っていない。</p>	○	<p>現在法人内での管理者会議でも成年後見制度や地域権利擁護事業については学習を行っており、制度利用を必要に応じて推進しているが、今後は法人内での研修会で取り上げ全職員が制度の詳細について理解出来る様学べる機会を作っていく方向で検討している。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>職員は研修に参加すると共に、管理者を含めた職員間での共有を図ることでどのような内容が虐待や拘束に当たるのかを理解し発生の防止に努めている。</p>	○	<p>高齢者虐待に関しても、法人全体の取り組みとして同一の認識を持つ為にも独自に学習会や研修を行えるよう検討していく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>ここ1年半以上新たな入居者はいないが、今後に於いて入居希望があった場合は本人や家族の思い・不安を受け止め話し合いを行うと共に入居契約時には契約書の読み合わせの他、自立支援や終末期ケアについての現段階での希望・ホームに於ける指針等も合わせて説明・確認していく。</p>	○	<p>契約時のみの説明では、家族様も十分な納得を得る事が困難と思われる為、面会時や経費支払時等いつ何時でも質問し易い雰囲気を作り、十分な納得を得た上で安心して頂ける様心掛けて行く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月一回の検討会議・月例ミーティング・業務会議の継続(月1~2回)を通し日常、入居者様から話される意見・思い・苦情等を話し合い、解決している。また、日常生活の中で職員側から表情・活気・ソワソワ感などから原因を探り引き出す様に取り組んでいる。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月発行のホーム便りにて日常の様子・行事報告等行っている。また、金銭管理については毎月定期的に報告書及び領収証を送付し何に使用したかを明確にしている。また、事故(ヒヤリハット含む)や身体状況の変化時は必ず御家族に連絡し共に対策を練る等の協力を頂いている。		毎月発行のホーム便りについては、特に行事の写真を多く掲載し楽しそうな様子を伝えており、御家族より好評を得ている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情相談の公約窓口やホーム内の苦情受付など説明し、窓口案内を掲示している。また、苦情ボックスの設置も行っている。		御家族訪問時の言動の中にホームや職員に対する不満等がないか常に留意し取り組んでいる。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの提案や意見については、業務会議を定期的に関き意見を反映させている。		月例ミーティング・業務会議の継続。毎朝時の申し送り時に於ける問題点の報告と業務改善を行っている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤帯は早番・日勤・遅番と入居者様の生活帯に合わせており、通院日などは日勤の人数を増やし対応を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設し3年が経過するが、職員15名中8名が開設当初より勤務しており他の職員も殆どが2年以上勤務していることから、昨年同様馴染みの関係作りが出来ている為、入居者様の不安・ダメージ・BPSDの誘発等は見られていない。		各ユニットの交流を頻繁に行い、入居者様のみならず職員も頻繁に行き来することで顔を知ってもらう事で緊急の異動が起こった場合でも違和感を最小限に留める様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員の経験や力量に合わせ研修受講の体制をとっている。また、法人内でも定期的な研修を行い職員の参加を奨励している。</p>	○	<p>今後において法人内でも職員のモチベーション向上に向け教育体制作りを確立していくと共に、人材の確保やさらなる育成についても体制作りを確保していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>同法人内での交流や情報交換はもちろん、他事業所とも作品展やホーム祭での交流・職員研修会(同区内)・管理者連絡会等を通し交流の機会を設けている。</p>	○	<p>職員間の交流がもっと出来る様、各ホームに呼びかけて協力体制を整えたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>法人内での交流を深める事を目的に交流会を行ったりはしている。ホーム内に於いては職員の入れ替わりが最小限である事ことから仲間意識が向上しており、お互い助け合う姿勢がみられている。</p>	○	<p>業務多忙や人員不足に於けるストレスをいかにして解消していくか、法人全体で対応策に取り組んでいく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>各職員の能力・特技を生かした役割分担の実施。(料理指導・実地指導等)⇒リーダー・サブリーダーを中心とし、各職員の指導役としてレベルアップを目指していく。</p>		<p>資格取得の支援に関しても研修を行い、職員が向上心を持って働ける環境を整えている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>こしばらくは満室により入居相談等受けてはいないが、入居相談があった場合は御本人にも来訪頂き、ホームの様子を見て頂くことで納得して入居できる環境を提供している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>各家庭の諸事情や、それに伴う要望等、初期段階で話しがあった際は充分に取り組み要望に沿った対応をしていく様努めている。</p>		<p>各職員に浸透させ、同様の対応を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望があった際は必要に応じ医療機関や包括支援センターへの協力要請等を行う他、居宅支援事業所とも連携を図り常に御本人とご家族の希望に添えるよう支援している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族より生活歴や留意すべき点等の情報を頂き、職員や他入居者様とのコミュニケーション作りにも介入し会話や表情から不安や困惑している事を探り徐々に馴染んで頂ける様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食材の買出しや料理の下ごしらえ・食後の後片付けや掃除等、御本人の持てる力を存分に発揮して頂ける環境作りしている共に、職員は入居者様に対し常に敬意を払い学ばせて頂いている姿勢でより良い関係を築く様努力している。		入居者様の得意なことを通し指導してもらう場面を作り、お互いに支え合う関係を構築している。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	どのような事でもご家族と相談し、また、訪問の際には心身の状況や暮らしぶりを伝え話し合う持っている。	○	行事への参加はもちろんの事日常生活の場面でも家族が気軽に参加できる場面を作る。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	毎月のホーム便りにより近況を必ず報告していると共に、ご家族の面会や本人が望まれた時は電話を掛けてもらう等、家族と本人のより良い関係作りを支援している。	○	今後について家族が主体となって活動する機会を作っていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族はもとより、会いたいと願っている方との交流も行えるように取り組んでいる。また、日常会話の中から本人が希望している事を察知し、実現できるかどうかの検討を行っている。	○	「家に帰る」「兄弟に会う」等、家族と相談の上実現に向けて取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活の中で入居者の人間関係からお互いへの気遣いが見られた際にはその方に対し感謝の気持ちを伝える事で各入居者様の優しさを引き出すと共に、居室で閉じこもりがちにならない様、それぞれの得意分野で(調理や掃除等)力を発揮して頂く事でお互い支え合っている感覚を持って頂く。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	1年半程前に死去による契約終了があった他、ここしばらく退去された方はいない為、実施していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り、今までの生活スタイルに添える様ご家族と検討し、その上で職員間でサービス担当者会議を行い対応を協議している。		出来る限りの希望にこたえるケアを実践してはいるが、他入居者様に対し我慢を強いる事や嫌な思いをさせてしまう要望に対しては出来ない旨ははっきりと伝えている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用いてみたり、御家族や御本人の話の中から生活暦や生活習慣を把握し職員間で共有を図っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	開設当初より勤務している職員が多い事から、入居者様一人一人の身体面や精神面の変化を把握し情報の共有やケアの統一性を図り、変化に対しては検討会議等ですぐに対応出来る様話し合い、1日1日を安定して過ごして貰える環境作りを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月1回介護計画書に沿った検討会議を実施しケアの見直し等行っている。また、計画書の実施に際しては御家族や本人に説明し承諾を頂くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3～6ヶ月を評価期間とし、サービス内容が長期・短期それぞれの目標に沿ったものとなっているかどうか・目標が達成されているのかどうかを検討会議を通して職員間で話しあっている。		特変時や著明な変化が見られる場合は緊急に会議を開催し対応や今後について検討をしている他、本人・御家族・医療機関とも話し合いの機会を持ち、希望や気持ちの確認を行っている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に詳細に記入し、情報の共有を行った上でケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。また、特変時や状況の変化等あった場合は別途用意している特記事項用紙に詳細を記入する事でさらなる情報の共有と対応の検討に役立っている。		今年度7月より詳細に記録できるよう個別記録の改正を行った。今後個人記録の内容を詳細に申し送る事により統一したケアが出来る様心掛けていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当ホームは特定有料老人ホームと同一の建物にある事から、行事やボランティア活動、その他の往来等、入居者同士の交流が図れる様職員間で検討している。また、少人数での生活の場として、必要や要望に応じた個別ケアの実施を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域と共に生活するを目標に近隣の病院や理・美容室、スーパー等利用している。また、地域ボランティアの受け入れや消防と連絡をとり避難訓練・救命救急講習の実施等行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	福祉用具の活用。 入居者様一人一人が自分の持てる力を発揮でき、身体機能の低下防止や転倒等の事故防止が出来る様業者と連携し必要な福祉用具購入に当たっている。	○	今後には地域の居宅事業所とも連携して行きたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議への参加や困難ケースの相談・同一区内の空き部屋情報の交換や地域の情報等、協力頂いている。	○	権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントについての協働は今後必要に応じて対応して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		受診後は必ず御家族に状況報告し今後の対応について相談している。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		緊急時には協力要請し共に対応にあたってもらっている。また、病気についてもわからない事は相談し教えてもらっている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	その時々々の身体状況の変化に伴い、なんども御家族やご本人の希望を聞き、その希望に添えるよう支援していく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		法人としての「重度化・見取りケア」についての指針は整備されているが、職員への教育という形では実施していない。今後計画的に学習会が行えるよう取り組む。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所への移行の際は個人情報の部分に配慮し、御家族の了承を得た上で介護添書・介護記録の一部抜載・アセスメント表・ケアプランの提供等行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>介護職員としての対応の仕方・声掛け等日常や研修等で学び、プロの介護職員としての意識を持ってもらい、入居者様本位に考えた上で日常業務に当たってもらっている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>馴染みの関係作りを徹底させる事で御本人の仕草や行動から思いを感じ取り、その思いに沿ったケアを行うよう心掛けている。</p>		<p>職員側の誘いに拒否が見られる場合は一旦その場から離れたり、人を替えたりして対応している。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>近隣の理・美容室等の外出や買い物の希望があれば希望に添えるよう支援している。</p>		<p>突発的な希望については職員数の関係もあり希望に添えない日もあるので、その際は御本人が納得できる様しっかり説明している。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自ら整容の出来る方はして頂き、出来ない方については職員と一緒にいる。理・美容に関しては、昔馴染みの店や、特に女性は本人が望む店を選んで頂きおしゃれを楽しんで頂いている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材の買出しは必ず入居者様と共に行っている。また、食事準備や後片付け等、一人一人その方の力に合わせた仕事を持って頂き、実践してもらっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	火災への配慮から喫煙場所を設け、その場所のみで喫煙をして頂いている。おやつは時々入居者様と一緒に作り皆で楽しみながら食べていただくようにしている。	<input type="radio"/>	飲酒については現在のところ実施してはいるが、健康上の問題や飲酒を原因とした混乱がない方については今後検討していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を主とし、時間誘導や頻繁な声掛け排泄チェック等を行い、尿意の持続に努めている。失禁時は於いては衣類や素早く衣類交換を行い、清潔保持に努めている。	<input type="radio"/>	体調が思わしくない時、体力低下が著明な方は夜間帯のみでオムツ使用をしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には月・金(女性浴)火・土は男性浴とし入浴をしていただいているが、ご本人様の要望や状況に応じて随時入浴対応を行なっている。	<input type="radio"/>	夜間入浴は現在希望されている入居者様はいないが、今後希望があった場合は取り組んで行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それまでの生活(ベットではなく布団を敷いて寝ていただいたり等)を重視し、本人様にとって安心できる環境を整えられる様、職員間、家族様と検討をし、実施している。	<input type="radio"/>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活リハビリの一環として、その方の得意分野を模索しそれぞれ役割としてお手伝いをお願いしている。(終了時はお礼を言う)またボランティア来訪や外出(個別ケア等)を頻繁に取り入れ生活に楽しみを持っていただく支援を行っている。	<input type="radio"/>	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方は御家族了承の元自己管理されている。管理できない方は買い物時に職員が介助しながらレジで支払いをしてもらう。	<input type="radio"/>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>入居者様個人の買い物や、食材等の買い物(毎日必ず入居者様数名に同行して貰う)・散歩等、出来る限り1日1回何らかの形で外出出来る様支援している。また、御家族との外出については時間等制限する事なく積極的に外出してもらっている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>年中行事の中に月1回程度の外出行事を組み実践している。また、行事計画以外にも天候の良い日などは突発的に外出したりと積極的に外出支援することで気分転換や生活リハビリ(歩行訓練等)に繋げている。また、個別にも特に面会の少ない方を中心にデパートで買い物をしたり食事に行ったりと支援している。</p>		御家族にも行事予定の連絡をし、参加可能な場合は積極的に参加頂いています。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p> <p>公衆電話が1階ロビーにあることから、ご本人様が希望される場合は職員同行し必要に応じて一部介助しながら電話して頂いている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>面会時間の規制は一切行わず、何時面会に見えても構わない旨御家族には伝えていいる。また、昼食等跨ぐ場合は一緒に食事して頂けるようお勧めしている。その他、お花見や旅行・クリスマス会等、参加頂けるよう随時案内文を送付している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>講習会や勉強会を通して随時理解に取り組んでいるが、まだ熟知していない部分がある。</p>	○	身体拘束及び高齢者虐待についてさらなる勉強会の実施や研修会への参加等を重ね、より深く理解していける様取り組む。
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>日中はプライバシーに配慮しながら居室の鍵は開けて頂けるようにしてもらっている。また夜間に於いては、玄関口(エレベーター前ドア)は緊急時以外施錠しないようにしている。(不穩状態により徘徊や行方不明・破損行為等見られる可能性のある場合は安全の為施錠する場合もある)1階玄関は防犯の為施錠している。</p>		帰宅願望が強く一人で外出してしまう可能性のある方がいる為、事故防止目的(車道に沿っていることから交通事故の可能性が高い為)として玄関口にチャイムを設置し随時確認を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアにて共有の時間を過ごしてもらっている他、食事・コーヒータイム・おやつ時は必ず全員(発熱等安静が必要な方以外)フロアに集まって頂く事でさりげなく体調確認や様子観察を行っている。また、他に時間に置いても居室を訪問したり、随時声掛けをする事を心掛けている。所在確認については、職員間で連携を取りながら実施している。夜間は定時の見回り(21:00・24:00・3:00)以外にも様子を伺うため自主的に見回りを行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	誤飲や異食の可能性のある方については、御本人・御家族の了解の下職員預かりとし必要時に使用する分のみお渡ししている。また、刃物については一律職員で預かり使用時は職員付添いの下で使用頂いている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険性のある方は動作時の始まりから終わりまで間近で見守りを行う、服薬に対しては、服薬時に日付け・朝・昼・夕・氏名の確認を行っている。行方不明については日頃より近隣の方々と交流し情報をいただく他、近所の派出所にも協力を願っている。火災については防火管理者を中心に火災防止に努めている。		月例ミーティング・月例検討会議・緊急検討会議等を通して各フロア職員全員に入居者様一人一人の状態を把握してもらった上で個々に適した事故防止の取り組みを話し合っている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1回の救急講習会(応急手当・心臓マッサージ・人工呼吸等の実践指導)を受講している。また、職員には緊急時対応マニュアルを渡し、必ず目を通し学習するよう指導している。	○	出来る限り勉強会を多く設け、緊急時にはすぐに対応出来る様指導して行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の防火訓練の実施(消防署指導の下)及び、災害時緊急事態発生時には近隣の協力が頂ける様、運営推進会議等を通して日頃より依頼している。また、自然災害時に於ける一般・広域非難場所の確認・掲示も行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	来訪時折に触れ近況報告を行い、その際に予想されるリスクについてもお話して理解を求めている。また、特変時等はその都度報告し対応策と一緒に考えて頂いている。		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入浴前に全員のバイタル測定をしている他、必要のある方は随時測定を行っている。また、日常に於ける身体状況の確認を行い、異変が見られた際は他の職員と共に見極めを行った後、必ず詳細を管理者に報告、管理者が状況を確認した上で必要に応じた対応を行っている。その際は報告書等を通して職員全員で情報の共有を図っている。緊急性の高い場合は急変時マニュアルに沿って緊急受診・救急車要請を行う。		入居者様一人一人の情報(既往歴・服薬情報・かかりつけ病院・主治医等記載)ファイルを作成し緊急時には必ず持参し救急隊員や搬送先の病院にすぐに情報提供できるよう準備している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局より発行される内容説明書を随時コピーし服薬ファイルを作成し各フロアで保管している事で処方薬の内容を職員が把握出来る様にしている。服薬変更時は体調の確認を行い、変化時は速やかに担当医へ連絡し指示を仰ぐ様にしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎食のメニューに野菜を取り込み、また牛乳やヨーグルト等の乳製品の摂取・腹部マッサージや歩行運動等取入れ便秘予防に努めている。さらに、水分摂取を促がし便秘の改善を図っている。		慢性的な便秘や対応が困難な方は、担当医師に相談し便秘薬の調整にて対応している。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後は必ず口腔ケアを行って頂き、食物残渣による肺炎を防いでいる。(義歯使用の方はその都度外して頂き清掃・うがい後にお渡ししている)また、口腔内の異常や義歯の不適合等があった場合は提携歯科医にチェックして頂き、必要時は治療をお願いしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の摂取カロリーはおおよそ1600Cal前後に設定しており、主病のより一度に摂取出来ない方は間食や補食により栄養補給を行っている。水分量も1日1000~1500以上を目標に飲水の促がしを行っている。自力による摂取が困難な方については(特に退院直後等)随時ケアカンファレンスを開き対応策を検討している。		毎食の摂取量を個別記録に記載し、栄養のバランスなども留意して支援している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の研修に於いて、年1回は必ず感染症の関する講義を取り入れ予防対策を学んでいる。また、研修会で学んだ消毒用具や消毒方法等については必要時いつでも実践し感染を防ぐよう用意している。感染マニュアルも用意しているが、過度の対応策により入居者様の尊厳を損なわないよう対応していく。		感染の主原因として一番考えられるのが外部からの持ち込み、特に職員を介して発生する事は有る為、感染症の疑いがある時点で出勤停止をし、受診してもらいその結果を受け今後の対策を早急に検討することで蔓延防止に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は近隣のスーパーに毎日買い物に出かけ常に新鮮な食材を使用している。(肉は業者で1週間纏め買いし、冷凍保存し使い切っている。)調理器具は毎日消毒を行い衛生面に留意している。冷蔵庫は常に衛生に心がけ掃除を行なっている。</p>		<p>食事を残された方については、御本人様の上承を得た上で破棄している。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りは出来るだけ季節感溢れる装飾を心がけ入居者様に季節の移り変わりを感じてもらえるようにしている。</p>		<p>玄関入り口や各フロア廊下には行事写真を掲載し、御家族様来訪時みて頂き好評を得ている。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>建物上の関係から共有の空間が狭くあまり日当たりも良くないが、暗さを感じないように光の調節に心掛けている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>極力ソファを置いたりしているが、共有の空間が狭く一人で寛げる場の確保が難しい事から、一人で過ごしたい時は居室で過ごされる事が多い。気分転換の意味も込めて出来る限り個別の外出の機会を設けるようにしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>契約時や入居時に馴染んだ家具や愛着のある物を持ってきていただける様お話をさせて頂いている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温・湿度計を設置し、随時、特に乾燥しやすい季節は常に確認し加湿器や濡れタオルを干す等して調節に心掛けている。また、居室を訪問し、フロアとの温度差が無いかどうか確認し暖房温度の設定調節をさせてもらっている。換気については入居者様の了解の下、居室窓とドアを開け空気の入替えがフロア全体に行き渡る様にしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その方の身体機能が活かせる様、居間には手摺りを設置し転倒や事故を未然に防げるように対応している。		浴室やトイレ・転倒の危険性が高いと思われる入居者様の居室入り口にも手摺りを設置し更なる安全対策に取り組んでいる。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各入居者様の現在出来ている事・昔は出来たが出来なくなりつつある事・何かの手助けがあれば出来るかも知れない事等、職員全員で見極めその時の状態に適した対応を統一して行なう事で混乱や不安を抱かないように配慮し、今出来る事を最大限に発揮していただく事で自信を持ち生き生きとした生活が継続して出来る様、職員間で検討を繰り返している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りにはベンチを設置しており、入居者様の憩いや交流の場として活用いただいている。また、花壇やプランター等で季節の花々や野菜の栽培等して頂き季節感を味わえるよう心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者からの話(作話・妄想含)はとにかく傾聴し、否定・肯定を行わず本人の気持ちが収まるまで待つ姿勢で臨んでいることにより、どのような思いを抱き日々生活しているかを掴み職員間で対応について協議・検討出来ている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>各職員業務を分担する事により、バタバタ走り回る、無駄に2度・3度同じ作業をする事を減らし、多少なりとも時間に余裕を作り入居者と話をする時間を設けるよう努力している。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>1日の流れとして大まかな時間配分は行っているが個人個人の希望(一部)や身体状況・周辺症状に合わせ、規制をかけずその時々状況に応じて対応している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員の入れ替わりが最小限であり、馴染みの関係作りが出来ている事から、周辺症状が見られたとしても個々に取る事で落ち着かれ生活されている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者個々の希望に応じ、買い物や美容・理容室等への外出支援や、行ってみたい所はないか聞いた上での外出計画を行っている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>医療従事職員がいないことに対し不安感はあるが、緊急時には同一法人勤務の看護師の援助・かかりつけ医への定期受診往診を通し健康管理を行っている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員の交代(退職等)が少なく、顔馴染みの関係作りが出来ており、職員も入居者個人個人の状態や生活歴・病状・性格等把握できていることから、突発的な出来事に対しても常に状況判断し、状況に合わせた対応を行っていることで入居者自身安心して過ごせている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>訪問時に於いて必ず近況報告を行っている。その際、家族より相談事や質問事項があれば対応し、確認を必要とする事は後日返答している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>町内会婦人部の方々がボランティア活動の一環として訪問に来てくれる等ある。(有料老人ホームと一緒に)</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない 運営推進会議を通してというよりは、町内会への参加や日常での行き来を通して少しずつ理解を得てきているという状態である。
98 職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 重度化している入居者が何名かいる中で、常に協力しあいチームでケアを行っている。また、検討会議や勉強会にもほぼ全員参加し、技術・知識の向上に努めている。研修会への参加や資格取得のも意欲的である。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 時々周辺症状は見られるものの、以前のような暴力的行為や強い介護拒否、昼夜逆転・極度の徘徊等は殆んど見られず、一日を通し穏やかに過ごされている。(職員も「だめです」「やめてください」のケアは行わない事に徹底し、話を聞くケアに従事している。)
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない 運営推進会議に於いて一部家族よりサービスに対する感想をこまめな状況報告や相談・確認をしてくれている事で安心してと述べて下さっている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

施設入所しているから出来ない、諦めなければならないという事なく、家庭で生活していれば当然に行っていること(外出・買い物・外食・旅行等)をして頂き、自分らしく生き生きと毎日を送る、楽しみを持って毎日を送る、顔なじみの職員がいる事で安心できるホーム作りを今後共に行っていきたい。今年度は社会との積極的な交流及び外に出るを目標に外出行事を多く設けている。